

NO	状況	医療機関名	所在地	自施設の現状等	2026年度末に向けて担うべき役割等	病床機能等の見直し						
						① 病床 機能	② 病床数	③医療 機関の 役割	④ 連携、 再編	⑤ その他	⑥ 現状 維持	具体的な内容
1		みどり病院	岐阜市	【現状、特徴】 岐阜市東部の地域医療を担ううえで、在宅療養を続ける方が時々入院、ほぼ在宅といった地域での生活支援ができるよう入他院調整を実施。 【課題】 2024年5月に新築移転した。病床数は変更せず個室の数を増やし入院受け入れをスムーズにしたことで下り搬送、紹介、救急車受け入れは増加できた。看護師確保が厳しいため、病棟運営には苦慮している。	引き続き、地域の医療介護ニーズに応えること。とくに、地域の自治会や社協、介護施設からの多様なニーズに応えられるよう、懇談を重ね仕組みづくりを検討しています。	実施 済み		実施 済み			○	新築移転に伴い門前診療所の外来機能を移行した。精神科外来、透析外来を病院にて実施することで患者の利便性は向上できた。 新病院から総合診療科を標榜した。
2		近石病院	岐阜市	【現状、特徴】 地域の救急から急性期、回復期リハビリテーション、慢性期療養、在宅までトータルな医療サービスの提供、かかりつけ医として最善を尽くしています。特徴といたしましては、外来を別棟とし通院治療を一層充実させ地域との共生・密着を第一に進めています。 【課題】 病床再編を考えるにおいて改築が必要であります。建物の構造上困難なことが見受けられます。	回復期を中心に在宅に力を注ぎます。	○						病床再編について検討中でございます。
3		医療法人 和光会 山田病院	岐阜市	【現状、特徴】 地域における後方支援病院として、急性期病院からのサブアキュートの役割、地域で暮らす全ての人が、急な病変などの受け入れに迅速に対応し、安心して暮らせる場所や社会資源の活用に対する提案、調整を医療・福祉・保健・子育てを通し切れ目のないサービス提供を目指している 【課題】 ・地域における自院の機能、役割を広報誌し、知ってもらう。 ・相談から受け入れに対し、迅速に対応（待たせない） ・入退院前からの多職種による連携支援により地域での生活見据えた在宅支援体制の構築	医療・介護・福祉・障害・子育てなど複合的なサービスを提供できる地域の暮らしを支える後方支援病院である。						○	現状の特徴の内容において、同様の役割が今後も必要であると考えため
4	変更	山内ホスピタル	岐阜市	【現状、特徴】 回復期病棟で消化器、運動器、脳機能障害などの疾患患者にリハビリテーションの積極的な介入。人間ドック・健診の予防医療に重点を置き早期診断・評価を実施している。 【課題】 在宅復帰後のQOL向上を目指して、訪問診療にも注力を継続していき、医療サービス推進室やリハビリスタッフをはじめ多職種の協働体制や連携の強化を図る。	地域患者へ医療提供体制として、地域包括ケア病床の拡充と、訪問診療など必要な支援やケアを提供する。	実施 済み	○					一般病棟では、令和8年9月に急性期病床を30床から17床へ再編し、地域包括ケア病床を23床から36床へ増床する計画です。また、回復期リハビリテーション病床60床についても、地域の医療需要や病床機能の役割を踏まえ、適正な病床規模について検討を進めます。

NO	状況	医療機関名	所在地	自施設の現状等	2026年度末に向けて担うべき役割等	病床機能等の見直し						
						① 病床 機能	② 病床数	③医療 機関の 役割	④ 連携、 再編	⑤ その他	⑥ 現状 維持	具体的な内容
5	変更	岐阜大学医学部 附属病院	岐阜市	【現状、特徴】 本院は2030年に向けての将来ビジョンを策定し、県内唯一の特定機能病院、地域医療機関との連携中核病院として「高度医療拠点としての機能強化と地域医療への貢献」「安心・安全な最高のサービスを届ける病院の確立」を目指し、5疾病6事業はもちろんのこと、質の高い医療を追求するが、その他の領域についても高度な医療を追求している。 【課題】 高度急性期医療を提供するにあたり、医療機器の新規導入や更新、さらに近年はIoTやAIなどの技術を活用したメディカルデジタルトランスフォーメーションによる大学病院のスマートホスピタル化が急速に推進されており、経営基盤の強化が課題である。	地域医療構想において「岐阜大学医学部附属病院（高度救命救急、ドクヘリ基地、基幹災害拠点、がん県拠点等）が県全体の急性期医療の中心的役割を担い、岐阜県総合医療センター、岐阜市民病院、松波総合病院が、岐阜大学医学部附属病院と連携し、岐阜圏域の急性期医療の中心的役割を担う。」とされていることから、本院として、この方針に沿った役割を担う。			実施 済み				地域医療構想に掲げられているが県全体の急性期医療の中心的役割を担うため、H31.4 ゲノム疾患・遺伝子診療センター設置 R3.4 岐阜県地域周産期母子医療センターに指定、成育医療センター設置 R3.4 循環器センター、炎症性腸疾患センター設置 R3.11 岐阜県難聴児支援センター設置 R4.4 手術棟開設、感染制御室、医療の質管理室設置 R5.1 総合患者サポートセンター設置 R6.4 ロボット支援手術センター設置 R6.6 岐阜県脳卒中・心臓病等総合支援センター設置 R7.4 がんセンター、周産期・生殖医療センター改組、臓器移植支援室設置 R7.8 肥満症治療センター設置 など機能強化を図った。 引き続き高度医療拠点としての機能強化、地域医療への貢献を目指し、対応を進める。
6		岐阜ハートセンター	岐阜市	【現状、特徴】 1. 循環器専門病院として手術室:2室、ハイブリッド手術室:1室、カテ室:2室、心臓超音波検査室:4室、128マルチスライスCT:1台、心臓専用核医学診断装置:1台を有し高度急性期中心の医療を行っている(2021年病床利用率:79.8%、病床稼働率:91.8%)。 2. 5疾病に関しては循環器専門病院として確かな技術の提供に努め、県内有数の治療実績をあげている(2021年実績では急性心筋梗塞、再発性心筋梗塞: 153件、PCI: 726件、Ablation: 517件、心臓・胸部大血管手術: 180件)。また、心臓弁膜症をはじめとする構造的な心疾患治療に対しても、従来の外科治療に加えカテーテル治療においても積極的に行っている(2021年実績では経カテーテル大動脈弁留置術: 81件、経皮的僧帽弁クリップ術: 13件、経皮的左心耳閉鎖術: 9件等) 3. 5事業に関して循環器救急においては24時間、365日断らない体制を整備(届出入院基本料7:1、常勤医師は循環器内科医: 14名、心臓血管外科医:5名、麻酔科医:2名)するとともに、遠隔地からのドクターヘリ、防災ヘリの受け入れも積極的に行っている(2021年救急車:578件、ヘリ搬送:21件) 【課題】 1.急性心筋梗塞に対する体制の向上 ・Door to balloon timeの短縮、かかりつけ医との連携によるOnset to balloon timeの短縮および定期フォロー(予後改善、QOLの向上と再発予防) 2.慢性心不全の急性増悪に対し循環器専門病院としての対応力向上 ・心不全の原因疾患に対して、エビデンスに沿ったより積極的な治療介入 ・地域連携パスを用いてかかりつけ医との連携を強化、定期的な専門医によるフォロー(QOLの維持・向上、急性増悪予防) 3.足の循環器疾患症例に対しtotal vascular care ・後方連携の強化、地域全体への教育と啓蒙	急性の循環器疾患(急性心筋梗塞、大動脈解離等)に対し、24時間体制で受け入れ、緊急カテーテル治療や手術可能な体制を整備するとともに、術後においても集中的な看護、積極的なリハビリ、栄養、服薬指導による、患者様の予後改善、退院後のQOL向上につとめる。また、虚血性心疾患治療のみならず、構造的な心疾患、不整脈、閉塞性動脈硬化症などの循環器疾患に対しても、従来の外科的手術治療に加え、最先端のカテーテル治療介入を積極的に行っていくとともに、より質の高い循環器医療を通じて地域に貢献していく。また、心不全パンデミック対策においても地域のかかりつけ医らと連携して、治療後のフォローアップをしっかりと行うことにより、地域を上げて繰り返す再入院対策に取り組む必要があると考えます。						○	従来の虚血性心疾患や大血管疾患、不整脈治療のみならず構造的な心疾患患者に対しては、外科的手術治療に加え、経カテーテル大動脈弁留置術経皮的僧帽弁クリップ術、経皮的心房中隔欠損閉鎖術、経皮的左心耳閉鎖術、経皮的中核心筋焼灼術等最先端のカテーテル治療介入を積極的に行っていくため心臓カテーテル室を増設するとともにハイケアユニットを稼働させ、より質の高い循環器医療を通じて地域に貢献していく。心不全パンデミック対策においても地域のかかりつけ医らと地域連携パス等を運用して患者や家族に再発予防教育を含む取り組みを実施していく。

NO	状況	医療機関名	所在地	自施設の現状等	2026年度末に向けて担うべき役割等	病床機能等の見直し									
						① 病床 機能	② 病床数	③医療 機関の 役割	④ 連携、 再編	⑤ その他	⑥ 現状 維持	具体的な内容			
7		医療法人生友会 柳津病院	岐阜市	未回答											
8		岐阜市民病院	岐阜市	【現状、特徴】 ・岐阜市立の公立病院として地域の医療を支える役割を担う当院は、関係機関と連携して市民のニーズに応え、小児医療、精神科医療を含む幅広い医療を提供するとともに、岐阜圏域の急性期医療の中心的役割を担う病院として、専門的な手術、がん医療などの先進的かつ高度な医療や救急医療を提供している。 ・また、当院は災害拠点病院の指定を受け、災害時における救命医療を提供する機能を整備している。 【課題】 ○高齢化に伴い増加する重症患者への対応 ・医療提供体制の強化（救急診療・手術実施体制） ・手術室や高度治療室（重症患者管理病床など）の不足解消 ○人材の確保・育成 ・少子高齢化に伴う働き手の減少を見据えた計画的な職員採用 ・診療機能を維持・向上するための専門職の計画的な育成 ○医師・看護師など医療技術職の働き方改革 ・職員の業務負担の軽減と医師の時間外勤務上限規制への対応 ○地域の医療機関等との連携強化 ・紹介患者の受け入れ拡大 ・円滑な転院調整等による在院日数の適正化 ○医業収支の改善	公立病院として、小児医療、精神科医療を含む幅広い医療ニーズに対応するとともに、岐阜圏域の急性期医療を担う病院として、職員の充実を図りながら、救急搬送患者や重症患者の増加に対し、専門的な手術、がん医療などの先進的かつ高度な医療や救急医療を提供していく。また、災害拠点病院としての機能を整備し、自然災害や新興感染症の感染拡大等に対応していく。		実施済み				実施済み	②令和5・6年度に中央診療棟の個室化工事を実施したため、令和7年9月に急性期病床を10床削減した。（うち、病床数適正化支援事業で6床削減） ⑤令和7年11月に診療科の移動を伴う病棟再編を行った。			
9	変更	独立行政法人国立病院機構長良医療センター	岐阜市	【現状、特徴】 呼吸器疾患（結核を含む）は、呼吸器系腫瘍、呼吸器感染症、慢性閉塞性肺疾患、気管支喘息などについて取り組んでおり、肺癌手術、化学療法、放射線治療も行っている。 がん疾患については、緩和ケアとして、令和5年1月10日より緩和ケア病棟を開棟し、呼吸器系以外のがん患者も受け入れている。 神経筋疾患（筋ジストロフィーを含む）・重症心身障害等を有する障がい児（者）はショートステイから長期入院まで幅広く対応している。 【課題】 結核病床を30床有していたが、結核患者数の全国、岐阜県の動向を見ても、年々減少傾向にあることから、岐阜県との調整により令和5年10月1日より18床に削減した。	急性期機能（肺がん患者等）を活かしつつ、他の医療機関で実施していない、結核、筋ジス・重心といった慢性期機能をしっかりと担っていく。また、近隣急性期病院の充実度、緩和ケア医療のニーズなどを踏まえ、令和5年1月10日より緩和ケア病棟を開棟した。引き続き、回復期系の機能を更に充実させる方針である。		実施済み					更なる一般急性期病床の効率化を図るため、結核モデル病床工事を令和6年度に実施したが、個室を8床増加する工事過程で令和7年4月に急性期の休止病床を1床削減した。また、これまで休止病床の活用について、新たな診療機能を模索してきたが、医師採用の見込みが立たない等の理由により、令和7年9月に急性期の休止病床を73床削減した。			

NO	状況	医療機関名	所在地	自施設の現状等	2026年度末に向けて担うべき役割等	病床機能等の見直し						
						① 病床 機能	② 病床数	③医療 機関の 役割	④ 連携、 再編	⑤ その他	⑥ 現状 維持	具体的な内容
10		医療法人慶睦会 千手堂病院	岐阜市	【現状、特徴】 療養病床（地域包括ケア病床含む）と在宅診療、みなし訪問看護・リハビリなどを有しており地域密着型病院として、また急性期の後方として迅速な患者の受け入れを行ない、地域完結型医療が提供できるように研鑽しております。クリニックとの連携を強化し、レスパイト入院も積極的に行っております。 【課題】 ・地域においても安心して患者・家族が療養生活を過ごせるよう在宅診療部と訪問看護・リハビリ提供体制の強化 ・患者様にとって最良なケアの提供を病院内外の多職種で行えるような体制の構築をより充実させる	・地域包括ケア病床機能としてポストアキュートの役割を果たせるように下り搬送、緊急入院への対応を行っていく。 ・地域のコロナ感染患者への医療提供を継続して行う ・地域住民のかかりつけ医としての役割遂行	実施 済み	実施 済み				○	療養病床の一部を地域包括ケア病床へ転換したため。
11		城南病院	岐阜市	【現状、特徴】 様々な事情により、介護施設や家庭などで受け入れることが困難な方の終末期の療養や看取り 【課題】 地域包括ケアシステムとの連携が図りづらく、存在意義や活用の状況が理解されづらいため病床がうまくいく、施設維持が困難	引き続き様々な事情により、施設や家庭で受け入れる事が困難な方の終末期の療養や看取りを担う施設としての存在						○	病床機能等を見直すにはたいへん大きなコストがかかり、現実的ではないため。
12	変更	医療法人社団幸 紀会安江病院	岐阜市	【現状、特徴】 地域のかかりつけ病院として、一般外来、救急外来、入院診療、訪問診療、リハビリテーション等の医療を提供しています。また、関連施設（老健、特養など）との連携により利用者の希望や状況に適したサービスの提供ができるよう努めています。 現在の病床は地域一般1が40床、地域包括ケア病床1が20床で構成しており、地域急性期、ポストアキュート、サブアキュートに対応しています。 【課題】 ①設備や医療機器の更新 建物設備や各種機器の経年劣化が進んでおり、修理・更改のためのコストが高額となっている。特に、サーバやPBX等の情報機器に関しては値上がりが大きく負担が大きい。 ②常勤看護職員の確保 夜勤可能な常勤看護職員の確保が困難となっている。関連施設においても看護職員の確保に苦慮している。	超高齢化社会の到来に備え、引き続き地域のかかりつけ病院としての役割を果たせるよう、地域包括医療病棟への転換を視野に入れ、地域連携の更なる進展および在宅医療体制の拡充を図ります。	○	○					・地域包括医療病棟への転換 ・病床数削減（60床→50床）
13		医療法人社団永 寿会大橋整形外科病院	岐阜市	【現状、特徴】 地域に密着した医療機関として病院内に介護医療院・介護老人保健施設を併設し医療、介護を含めて地域に貢献していく事に重点を置いている。 【課題】 整形が主な診療科目であり内科診療が弱く外部医師に託しており今後、自医専属の内科医師の雇用が必要。	現状、特徴を維持していく						○	現在、慢性期の病床機能として運営しているが、急性期の病院での入院期間は1～2週間と短くリハビリ等にて在宅復帰の機能を有しておらず、現状において急性期病院からの術後の在宅復帰に向けてのリハビリ目的での転院依頼が多数あることから、今後も現在の病床機能と病床数にて継続して運営していく方針である。
14	変更	医療法人社団双 樹会 早徳病院	岐阜市	【現状、特徴】 現状の許可病床数は、一般病床（地域一般3）40床及び療養病床（療養病棟1）60床。透析ベッド数55床も有し、透析患者の送迎も行うことで、地域の透析需要に対応しているのが特徴です。 【課題】 看護師の確保が難しいため一般病床（地域一般3）40床を10月1日を目処に休床とする。一般病床の看護師を療養病床等へ配置することで、看護師体制の充実を図っていくことが課題。	①透析病院として、地域の透析需要に更に応じることが出来るよう更に体制を整えていくことが役割と捉えている。 ②一般病床を休床するが、看護師不足で一旦停止していた訪問看護を再開し拡充に努め、地域医療に貢献できるような体制を確保できるようにしていきたい。		○					現在、許可病床数は、一般病床40床、療養病床60床の合計100床です。看護師確保が難しいため、10月1日を目処に一般病床40床を休床とし、看護体制の充実を図ります。

NO	状況	医療機関名	所在地	自施設の現状等	2026年度末に向けて担うべき役割等	病床機能等の見直し						
						① 病床 機能	② 病床数	③医療 機関の 役割	④ 連携、 再編	⑤ その他	⑥ 現状 維持	具体的な内容
15	変更	河村病院	岐阜市	【現状、特徴】 当院は脳神経内科を主とする病院で、救急搬送を含む緊急入院や、在宅および初期医療を必要とする患者の受け入れに対応する急性期病床と、大学病院・公立自治体病院等での急性期治療後のリハビリテーション等を担う後方支援機能である回復期・慢性期病床を有するケアミックス病院である。 また、同法人内に介護保険老人施設等の介護施設を有し、訪問診療等の在宅医療および在宅介護事業など、一気通貫した患者ニーズに対応する、地域に必要とされている役割を担っている。 【課題】 ・建物の老朽化による建替え ・医師をはじめとする医療従事者の人材確保	引き続き、現状担っている役割を継続していく。						○	地域において、現状担っている役割が、今後も必要とされる考えるため。
16		笠松病院	岐阜市	【現状、特徴】 「Be Best For People」をモットーに、急性期医療から慢性期医療と介護・福祉を総合的に提供し、地域に密着した医療活動を行っています。また救急指定病院として周辺の救急患者様を24時間365日体制で受け入れています。救急車受入れ台数についても年間800~1000台近くを受け入れております。 【課題】 昨今では新型コロナウイルス感染症拡大の影響で、対応する看護師たちにも多大な業務負荷が掛かってきております。今後の高齢化社会やコロナ禍においても、地域のかかりつけ医として充実した医療を継続して提供できるように、職員の確保が課題となっています。	迎える超高齢化社会の中で、周辺の診療所とも連携を取りつつ、当院のケアミックス病院である特徴を活かし、今後も患者の状態に合わせ、手術から術後のケア、急性期から回復期療養、看取りまで一貫して行い、今後も地域の方々が気軽にかかる事ができる病院を目指しています。地域のクリニックからの急な入院加療に対応する事で地域の皆様に貢献していきます。						○	今後も継続して、地域の方々が気軽に来院できる「入院まで出来るかかりつけ医」として、当院がやるべき医療を提供していきます。
17	変更	岐阜赤十字病院	岐阜市	【現状、特徴】 令和7年度の紹介率は87.8%と前年度より上回り、引き続き地域医療支援病院としての役割を担っている。また、感染症指定医療機関として新たな感染症患者の受け入れに備えるとともに、ロボット手術の活用など診療の幅を広げている。 【課題】 病床稼働率の低下が続いており、集患及び増収を課題としていた。令和7年5月からは1病棟を地域包括ケア病棟に転換し、病床稼働率の向上と機能拡張を図る。幅広い患者ニーズに対応することにより、集患及び増収を目指す。	災害拠点病院や感染症指定医療機関としての役割が果たせるように、高度急性期や急性期病院の機能を維持する。さらに1病棟を地域包括ケア病棟に転換したことで、地域医療支援病院として在宅復帰支援の機能を強化する。急性期から在宅治療まで一貫した役割を担うことにより、地域包括ケアシステムの実現に貢献する。	実施済み	実施済み					東4階病棟(40床)については、急性期病棟として移動しておりましたが、病院全体の病床稼働率の向上が見込めないこと、建物の老朽化を理由に平成30年5月から休棟としていました。休棟後も病床稼働率が低く、今後の使用見込みがないため、医療施設等経営強化緊急支援事業(病床数適正化支援事業)を契機に24床を令和7年9月30日付けで削減しました。
18	変更	医療法人社団 誠広会 平野総合病院	岐阜市	【現状、特徴】 当該医療圏の特質として高齢化率36.5%を超える急性高齢者医療、生活習慣病等の疾患対応のため急性期から慢性期及び在宅医療へ広範囲の対応が求められ、訪問診療、訪問看護、早期発見のための予防健診等地域における多岐にわたる疾患対応医療機関としての役割も担っております。 【課題】 多岐のわたる地域医療のため、在宅支援体制、看護、介護の充実等人材育成、確保に課題を生じている。	当該医療圏における特質医療環境から、早期の社会復帰のため在宅部門(在宅支援、地域包括支援)及び地域施設との連携により、急性から地域包括ケアへの早期転棟、在宅における訪問診療、訪問看護、訪問リハビリテーションへの連携体制により、住み慣れた居住地で医療(診療、看護)継続できる体制に重点を置いております。	実施済み	○	実施済み	実施済み			現状の当該自院の急性期施設基準、特に重症度・看護必要度、平均在院日数、夜勤体制等維持継続することが困難であり、現状の病棟体制(急性139床、療養48床)の維持継続できる看護師体制が継続困難により、令和8年12月末までには、急性病棟29床(休止から廃止)し、看護体制の充実、維持継続を図り、事業継続体制を早期に構築、地域医療に貢献を図るため。

NO	状況	医療機関名	所在地	自施設の現状等	2026年度末に向けて担うべき役割等	病床機能等の見直し						
						① 病床 機能	② 病床数	③医療 機関の 役割	④ 連携、 再編	⑤ その他	⑥ 現状 維持	具体的な内容
19		操外科病院	岐阜市	【現状、特徴】 ・診療実績 急性期一般入院基本料6(35床 1病棟のみ)、人工腎臓装置 2設備 45台 救急病院(外科) ・職員数 医師 常勤4名 非常勤6名 看護職員 常勤26名 非常勤6名 臨床工学技士 常勤9名 非常勤1名 理学療法士 常勤4名 薬剤師 常勤1名 診療放射線技師 常勤1名 管理栄養士 常勤1名 その他 常勤38名 非常勤13名 ・特徴 4機能のうち、急性期機能が中心 ・担う政策医療 がんの療養機能 脳卒中の回復期機能 糖尿病合併症に対する専門治療機能(人工透析) 救急告示医療機関 【課題】 ・急性期医療を受けた後の患者の受け皿となる病院として、「5疾病」の中の、がん、脳卒中、糖尿病の患者のほか、様々な疾病の患者の受け入れ。 ・地域の高齢者等の、比較的軽度の疾病に関する入院治療。 ・在宅診療を行う医療機関(自院も含む)からの、24時間対応による後方支援病院としての入院患者の受け入れ。 ・救急告示医療機関としての入院患者の受け入れ。 ・透析施設を有する病院としての入院患者の受け入れ。 等、様々な入院患者を1病棟35床で受け入れている現状について、また開設以来38年の建物についても当院の役割を再検討した上で何らかの対策が必要。	「1. 自施設の現状等」の「課題」で記したとおり、 ・急性期医療を受けた後の患者の受け皿となる病院として「5疾患」の中のがん、脳卒中、糖尿病の患者のほか、様々な疾患の患者の受け入れ。 ・地域の高齢者等の比較的軽度な(急性期も含む)疾患に関する入院治療。 ・救急告示医療機関として、大病院のみでは対応しきれない入院患者の受け入れ。 ・在宅診療を行う医療機関(自院も含む)からの、24時間対応による後方支援病院としての入院患者の受け入れ。 ・透析施設を有する病院としての入院患者の受け入れ。 等、様々な入院患者に対応すべく急性期医療の提供体制を1病棟35床で維持していく。						○	急性期一般入院基本料6の病棟において地域包括ケア病棟入院料(医療管理料)を算定する病床への転換を検討中。
20		医療法人社団志朋会加納渡辺病院	岐阜市	【現状、特徴】 急性期病院および在宅支援病院としての機能を発揮できるベッドコントロールを行っている。近隣の診療所や介護施設からの入院も多く、日常的に介護分野との連携も多い。 【課題】 近隣には一般救急を受け入れる病院が少ないため、今後も中度・軽度の救急患者の受け入れが続く。急患や入院は主に高齢者であるため簡単に退院することが困難なケースが多く、在院日数の増加につながる傾向にある。急性期医療への理解を求めることも重要となってくる。	高度急性期病院では対応しきれない救急患者の受け入れを強化する。医療依存度が高く在宅療養が困難な患者等へのサポートを入院から在宅まで一貫して行う。						○	岐阜駅から南は、救急患者の受け入れを行う医療機関が不足しており、岐阜市民病院や県総合医療センターでは対応しきれない救急患者の受け入れ強化、また亜急性期医療の受け皿としての立ち位置が今後も求められると思われます。この地域の急性期医療を守っていく役割を担う必要性があると考えます。
21	変更	岐阜清流病院	岐阜市	【現状、特徴】 地域包括ケアシステムのなかで、岐阜大学医学部附属病院、岐阜市民病院等の急性期治療の後方受入病院、開業医および介護施設からの初期医療を必要とする患者の受入れ、岐阜市の輪番制(二次救急)等による救急患者の受入などの医療を提供。 【課題】 医師、看護師、理学療法士、作業療法士、言語聴覚士等の要員の確保。	高齢者の増加に伴い、高齢者がかかりやすい肺炎、脳梗塞、心不全、股関節・大腿骨近位骨折などの疾患が増加することが予測されることから、高度急性期治療後のリハビリテーション体制を主体とした医療機能が必要であることから、休床病床を回復期機能の病床へ転換を図るための体制を整える予定。	○	○					令和8年度(2026年)中に休棟病床54床を6床削減し48床とする予定。現在休止している一般病床54床(西2階)分を改修後に、既存の東3階病棟を西2階へ移動する予定。また、令和9年度(2027)中に休棟休床48床の急性期病床から回復期(回復期リハ)病床(48床)への転換を予定。

NO	状況	医療機関名	所在地	自施設の現状等	2026年度末に向けて担うべき役割等	病床機能等の見直し							
						① 病床 機能	② 病床数	③医療 機関の 役割	④ 連携、 再編	⑤ その他	⑥ 現状 維持	具体的な内容	
22		操レディスホスピタル	岐阜市	【現状、特徴】 産婦人科病院としての施設を生かし、生殖補助医療（男性不妊含む不妊治療）、無痛分娩実施施設、その他婦人科健診等、地域住民に必要な不可欠なサービスを提供する。 【課題】 分娩施設減少に伴い、分娩、婦人科系患者の診察に対応できるだけのスタッフ確保。	さらに少子化が進み、より精度の高い不妊治療の実施と、安全な分娩、妊婦様に今までにない分娩スタイルを提供できるようにする。						○	一般急性期病床で32病床数で問題ないとする。	
23		岐阜県立希望が丘こども医療福祉センター	岐阜市	【現状、特徴】 ・手足や体幹等に障がいのある18歳未満の児童を対象に手術、リハビリ、入所による生活支援に加え隣接する特別支援学校への通学も含めた療育を行っている。 ・増加している子どもの発達障がい及びその二次的な障がいの診断、評価を行い、障がいに応じたりハビリやカウンセリングを提供している。 【課題】 ・高度な医療的ケアが必要な超重症児・準超重症児の支援ニーズが高まっているが、施設面、人的面などを理由に十分に対応できず入院につながっていない。 ・発達障がいに関する予約件数が増加しているが、初診までの待機日数が長くなっている。	・児童福祉法に基づく医療型障害児入所施設として、医療・福祉の多職種な人材を活用し総合的な療育を提供していく。 ・ニーズの高い発達障がいのある患者の初診待機を解消するため、小児科と児童精神科医師を増員し、初診枠の拡大を図る。		実施済み					病床稼働率の現状及び将来見込みを踏まえ、病床数を令和4年4月1日付けで10床減少した。（53床→43床）	
24	変更	朝日大学病院	岐阜市	【現状、特徴】 地域中核病院として急性期から回復期までの機能を有しており、急性期においては内科、外科のほか、脳神経外科、歯科においても当直体制を敷いている。回復期機能としては回復期リハビリテーション病棟及び地域包括ケア病棟を有している。そのほか、血液浄化センターとして許可病床とは別に40床を有するほか、歯科の二次医療機関であり、総合健診センターにおける予防医学にも注力している。 【課題】 本院の特徴をさらに活かしていくためには、救急外来、手術室が老朽化、狭隘化している等の問題があり、これの抜本的改善が必要である。また、検査関係の機器更新、狭隘化への対応も喫緊の課題である。さらに歯科医師臨床研修において20名の研修歯科医を受け入れているが、そのための施設設備の充実がさらに必要である。	交通の要所である岐阜駅近接の二次救急病院としての責務を果たす一方で、今後高まる回復期機能の充実を図る。また、糖尿病、整形、脳卒中の特色ある分野の他、総合健診センターにおける予防医学へのさらなる貢献と、加えて、増加する透析患者への医療提供を確実に進めていく。これらのために、新興感染症への対応も視野に入れた施設計画を策定中である。	実施済み	○			実施済み		新棟建設計画に基づき非稼働病床の温存を行ってきたが近年の建設費高騰による計画のやむを得ない見直し遅延の状況に鑑み、既存建物の床面積を効率的に活用し当院が有する診療機能や診療科構成等を生かしつつ、医療圏の医療需要に応える病床数、病床機能を再検討した結果現在の許可病床数381床を320床へ再編することで計画する。	
25	変更	岩砂病院・岩砂マタニティ	岐阜市	【現状、特徴】 地域の病院として、周産期・急性期・回復期・在宅医療を担う。2025年度からは訪問診療を強化し、地域のみなさまの暮らしを切れ目なく支えられる体制となった。 【課題】 ・在宅に関連する機能の強化 ・産前産後サポート体制充実	在宅に関する機能を強化し、地域のより多くの患者さんサービスが提供できるよう充実を図りたい。		○						2階一般病棟の病床稼働率の現状や将来見込みを踏まえ、病床数を19床へ縮小を予定

NO	状況	医療機関名	所在地	自施設の現状等	2026年度末に向けて担うべき役割等	病床機能等の見直し						
						① 病床 機能	② 病床数	③医療 機関の 役割	④ 連携、 再編	⑤ その他	⑥ 現状 維持	具体的な内容
26		岐阜県総合医療センター	岐阜市	【現状、特徴】 【理念】県民の皆様方に信頼され、患者さん本位の安全で良質な全人的医療を提供します。 【施設状況】ICU8床、PICU6床、NICU15床、MFICU6床 【職員数(常勤)】医師199名、看護師752名、その他専門職281名、事務79名 【特徴】高度急性期及び急性期病床を中心とし、救急、がん、循環器、周産期、小児、災害医療を重点医療とした医療を提供 【課題】 ・救急、がん、循環器、周産期、小児、災害医療を重点医療とする質の高い急性期医療の提供 ・回復期、慢性期を担当する病院、在宅医療機関との連携、機能分化の確立 ・重症心身障がい児入所施設の運営 ・(医師の)働き方改革への対応	岐阜地域の基幹病院として、近隣の医療機関との役割分担・連携の下、高度・先進医療、急性期医療、政策医療等の県民が必要とする質の高い医療を提供する。						○	当院の半数以上を占める65歳以上の岐阜県内の人口は、当面の間60万人前後で推移することから、現状の病床数は必要と考えられるため。
27		医療法人社団 慈朋会 澤田病院	岐阜市	【現状、特徴】 急性期病院からの透析やリハビリ目的等の患者さんをはじめ、長期的に医療行為を必要とする患者さんの受け入れを主に行っている。 【課題】 慢性期医療(医療療養)からの転院先への調整や医師、看護師、介護職員等の人員確保が課題である。	地域における医療、介護、福祉との連携を円滑に進め、今後さらに、回復期や慢性期における役割をより一層果たしていく。	実施済み	実施済み					2024年2月に一般病床6床減(急性期56床→50床)、療養病床24床減(慢性期164床→慢性期100床、回復期40床)、計30床減に転換した。
28	変更	羽島市民病院	羽島市	【現状、特徴】 羽島市内唯一の病床を有する医療機関として、救急機能・急性期機能の役割を担い、回復期機能についても市内の診療所や介護施設との連携を推進して、在宅療養後方支援病院としての役割を果たしている。 【課題】 現状の救急医療体制並びに診療科体制の維持	羽島市内唯一の病床を有する医療機関として、岐阜医療圏南部地域及び近隣も含む救急機能・急性期機能の役割を果たしていく。加えて、今後更に増加するであろう回復期機能について、適切な病床数を見定めつつ、早期からの入院支援、市内の診療所や介護施設との連携を推進して、在宅療養後方支援病院としての役割を強化していく。	実施済み	○		実施済み			①急性期病床36床を回復期病床に病床機能変更し、急性期病床132床(3病棟)を96床(2病棟)、回復期病床112床(3病棟)を148床(4病棟)とした。 ②新興感染症等への対応を踏まえた病床利用について再検討する必要がある病床のうち、再稼働を要しないと判断した急性期病床10床を令和7年9月に削減した。さらに、直近の受療動向などを踏まえ、病床数の適正化を図るために、回復期病床33床、休床中の病床17床についても追加で削減を行う予定としている。 ④地域医療連携推進法人 美濃国地域医療リンケージに令和8年1月加入した。
29	変更	東海中央病院	各務原市	【現状、特徴】 救急医療、脳卒中、心血管疾患、整形疾患への対応を中心とした急性期医療の提供体制を維持しつつ、同時に地域における回復期機能、終末期医療の中核としての役割を果たす。 【課題】 地域医師会や開業医との連携推進や市の行政や地域福祉との連携を行っているが、患者や市民サービスについて、更なる向上が求められている。	急性期医療の提供体制を維持しつつ、同時に地域における回復期機能、終末期医療の中核としての役割を果たす。また、地域医師会や開業医との連携推進や市の行政や地域福祉との連携を継続し、患者や市民サービスの向上に努める。	○	○					

NO	状況	医療機関名	所在地	自施設の現状等	2026年度末に向けて担うべき役割等	病床機能等の見直し						
						① 病床 機能	② 病床数	③医療 機関の 役割	④ 連携、 再編	⑤ その他	⑥ 現状 維持	具体的な内容
30	変更	各務原リハビリテーション病院	各務原市	【現状、特徴】 地域の医療ニーズの増加にともない、病院併設の介護老人保健施設を介護医療院に転換するなど、医療と看護・介護・リハビリテーションを総合的にリンクさせたサービスの提供に向け努力している。 【課題】 多様化する医療・介護ニーズに応えるため、病床機能の見直しや介護施設の充実、在宅医療の強化など、地域の実情に合わせたサービスを効率的に提供できるよう更なる努力が求められている。	急性期病院からの受け皿としての役割をより一層果たすため、病病連携や病診連携、および地域福祉との連携強化に引き続き努める。また、地域医療におけるかかりつけ医としての役割を果たすため、在宅医療の強化や外来機能の強化をはかっていく。						○	現時点では全体の病床機能および病床数を維持する方針とするが、今後見込まれる当地域における医療ニーズの変化等に柔軟に対応するため、病床数を維持しつつ一部の病床機能の転換を図るなど、病床機能の最適化について適宜検討を進める。
31		医療法人 秀幸会 横山病院	各務原市	【現状、特徴】 肺炎、心不全等の軽～中等症患者に対する入院加療と、認知症やその他の慢性疾患によりADLの低下した患者に対するリハビリ及び入院加療。 【課題】 看護師・看護補助員の確保、建物の老朽化	地域における、かかりつけ医としての役割と在宅療養が困難な患者に対する入院治療の提供。					実施済み		令和6年4月1日に58床のうち38床を介護医療院、20床を療養病床に転換。
32		岐阜県厚生農業協同組合連合会 岐阜・西濃医療センター岐阜北厚生病院	山県市	【現状、特徴】 令和7年9月に総病床を284床から262床へ減床し、効率的に運用しております。 病床機能としては、必要な急性期機能を有した上で、回復期、慢性期及び在宅医療等に積極的に取り組み、各医療機関及び介護施設等、関係機関と連携することで圏域北部において、切れ目のない医療機能を担う病院としての一翼を担っています。 【課題】 常勤診療科は内科、外科、整形外科及び放射線科となっています。その他の診療科は非常勤医師で対応しており、救急医療と診療体制の更なる充実に向けて医師確保が必要です。 また、薬剤師、看護師、看護補助員等の不足している要員の確保が必要です。	限られた医療資源の中で「地域完結型」の医療を支える役割を担う必要があります。今後、更に高齢者の比率が高まる中、地域の医療需要に応えるため、地理的要因により急性期から回復期、慢性期医療まで中核的役割（中核病院）を担います。	実施済み	実施済み	実施済み	実施済み			病床数適正化支援事業を活用し令和7年9月に急性期病床を22床削減しました。また、急性期病床(2床)を回復期病床(2床)へ機能転換を実施しました。削減理由:地域の人口減少と、医師・看護師不足のため
33		愛生病院	笠松町	【現状、特徴】 高齢者医療を中心に、地域医療・福祉に貢献する。高齢者が住み慣れた自宅や町で穏やかに住み続けられるようにリハビリテーションを重視している。ただ、ターミナル期の患者さんが多いのも事実で、人生の最期を安らかに迎えることができるような病院運営を心がけている。 【課題】 看護師は言うに及ばず、看護補助者の人員不足が著しい。そのため将来的に現在の規模を維持していけるかは不透明。また、超高齢化社会に伴い患者さんの状態像も重体化しており、ターミナル期への更なる対応が必要だと考える。	地域としては今後も高齢化に伴う対応が強まると考える。一般病院から退院した患者さんが自宅に帰るまでに重症化しないように、身体的、社会的なサポートをすることが当院が果たすべき役割の一つである。						○	平成30年に病床を減床しており、現在はこれ以上病床を減らす予定はない。

NO	状況	医療機関名	所在地	自施設の現状等	2026年度末に向けて担うべき役割等	病床機能等の見直し						
						① 病床 機能	② 病床数	③医療 機関の 役割	④ 連携、 再編	⑤ その他	⑥ 現状 維持	具体的な内容
34	変更	松波総合病院	笠松町	【現状、特徴】 ○当院の特徴 ・当院は、高度急性期病棟・急性期病棟・回復期病棟・慢性期病棟の複数の機能をもつ病棟のある「ケアミックス病院」である。 ・病床数は501床あり、複数の機能のうち、高度急性期病床・急性期病床で約7割弱を占めており、地域に高度な医療の提供を行っている。 ○当院の職員数 ・職員数は、常勤者、非常勤者を合わせると1,500名を超える（2026年7月1日時点）。 そのうち、医師は約170名(クリニックを除く、研修医含む)、看護職員は約510名おり、高度な急性期医療を安全に提供できる体制を確保している。 ○当院における医療提供と総合的質管理 ・2006年度からBSC(バランスト・スコアカード)やQC(Quality Control)活動を各部門、部署で行い、さらに2017年6月にQSR(Quality Surveillance and Recommendation)を開始し、当院の医療の質の向上に努めている。その結果として、平均在院日数や病床稼働率は高水準を維持することが出来ている。 *平均在院日数:11.38日(2025年度) *病床稼働率:93.82%(2025年度) ・届出入院基本料(特定入院料含む)は、6つの施設基準の届出を行っている。 *急性期A一般入院基本料 *障害者施設等入院基本料(10対1) *特定集中治療室管理料1 *救命救急入院料1 *回復期リハビリテーション病棟入院料1 *地域包括ケア病棟入院料2 ○当院の担う政策医療 ・5疾病・6事業については、各診療科が垣根を越えて連携体制を敷いており、チーム医療として提供している。 ・5疾病・6事業と在宅医療に関しては、すでに地域と連携を行っているが、精神領域の疾患、特に認知症に関しては、入院患者だけでなく、地域におけるケアを中心となって行っていく体制を構築している。 ・救急医療において、開設以来24時間365日救急患者を断らないことをモットーに羽島郡のみならず、岐阜市南部、羽島市、各務原市および県外である愛知県一宮市の救急隊からの救急要請に対応し、地域の救急医療体制の維持に貢献している。また、2017年10月より救急科の標榜や救急ワークステーションを実施している。さらに、当院のメディカルコントロール(以下、MCとする。)体制は、岐阜地域MC協議会の下部組織として設置しており、院内だけでなく笠松町、羽島郡医師会、羽島郡広域連合消防本部からも協議会委員を任命している。現時点では、岐阜南地区で活動を実施しているが、より広い地域での活動を目指している。その他に病院勤務の救急救命士における、緊急車両や救急外来での活動に対する教育システムやOSCE(客観的臨床能力試験)形式の実技研修、活動記録及び事後検証の仕組みを当MCで担保している。MC責任医師は専任の救急科医師が担当しており、病院救命士活動時の指示出しや質の担保は、対面やオンラインで実施している。またWEBカメラを利用して遠隔でも質の担保を行うシステムを有している。 ・2024年6月に岐阜南部における救急医療を円滑に行うにあたり、「岐阜南部救急医療をスムーズにする会」を発足し、県内22の医療機関が参加している。 ・2025年4月に救命救急センターに指定され、三次救急医療機関として、重篤な患者に対する高度な医療提供を行っている(専門医4名、指導医2名(+1名予定))。 ・新興感染症発生・まん延時における医療対策においては、2024年2月より「第一種協定指定医療機関」「第二種協定指定医療機関」の指定を受け、平時から県と新興感染症発生時における医療提供体制の構築をしている。 ・地域の高齢者の骨折や誤嚥性肺炎に対して、専門的な知識を持つスタッフによるチーム医療で栄養サポートや口腔ケア、嚥下訓練、運動リハビリを介入することで、早期的に発症を予防することができている。	○		○	○	○		①病床機能(高度急性期、急性期、回復期、慢性期)の見直し 当院では、2017年4月に病床機能及び整備が完了した状態である。しかし、圏域内の急性期医療の中心的役割を担うことが求められていることから、将来的には慢性期病床である障害者病棟や後方支援的な特性をなす地域包括ケア病棟は、協議の上、近隣の医療機関で対応していただく方針である。現在、南館に配置されている急性期病床の一部を、救命救急センター及び手術室を有する北館へ移設した。これにより、急性期医療に必要な診断・治療機能との動線が一体化し、重症患者への対応時間短縮や診療効率の向上を図る。 また、今後10年周期で発生が予測される新興感染症に備え、隔離機能を有する病棟を整備した。ゾーニングの明確化、陰圧設備の増強等により、院内感染防止体制を強化し、感染症流行時の受入れ能力を高める。 ③医療機関の役割(診療科、5疾病6事業等)の見直し ○質の高いがん診療の強化 がん診療におけるチーム医療体制を整え、診療に係る医師だけでなく、関連するすべての職員が、がん診療に関する知識の向上を図り、地域との連携協力体制(連携パスなど)、がん診療についての相談支援、内視鏡・ロボット手術などの高度な外科手術、IMRT等の放射線治療、化学療法、緩和ケアなどの医療提供を積極的に行っていく。 ○急性心筋梗塞対策について 発症者に対して適切な医療が提供できるよう周辺の消防機関との連携を強化し、高度な救命医療が切れ目なく迅速に提供できる体制を整備していく(救急ワークステーション等)。 また、発症予防の点から地域における研修会の開催などを積極的に開催し、地域住民への啓蒙を行い、連携医療機関に対しては、地域連携パスの普及を促進し、連携協力体制の強化を図っていく。	

NO	状況	医療機関名	所在地	自施設の現状等	2026年度末に向けて担うべき役割等	病床機能等の見直し						
						① 病床 機能	② 病床数	③医療 機関の 役割	④ 連携、 再編	⑤ その他	⑥ 現状 維持	具体的な内容
34	変更	松波総合病院	笠松町	・国民的な疾患である高血圧、糖尿病、脂質異常症に対して、法人内の人間ドック・健診センターとの連携を図り、地域一体の生活習慣病管理を行っている。また、肥満は、高血圧、糖尿病、脂質異常症等の生活習慣病をはじめとする、数多くの疾患の危険因子であることから、2019年3月より肥満外来を開設し、医師・看護師だけでなく、薬剤師、理学療法士、管理栄養士、公認心理士の各分野の専門家によるチームで対応している。 ・消化器病の治療において、岐阜大学から消化器専門医を2017年に3名、2020年に1名を迎え、各分野のスペシャリストが増えたことで、きめ細かい診療・治療対応が可能となり、地域に高度な医療が提供できている。また、内視鏡施行医の増加に伴い、対応件数も増加し、内視鏡検査予約の待ち時間の短縮を図ることができ、地域医療に貢献することが出来ている。 ・社会医療法人の使命として常時、中濃圏域、西濃圏域に医師派遣を実施しているが、2021年4月1日にへき地医療拠点病院の指定を受け、高山市国民健康保険久々野診療所へ医師を隔週で派遣し、へき地における医療体制の維持に務めている。 ・小児医療の提供はもちろん、小児発達障害児等の増加に対応するために2021年4月に『こころの発達診療センター』を開設し、医師を中心に、看護師、公認心理士、言語聴覚士などの様々な専門スタッフがそれぞれの専門性を活かして、診断や治療などに対応している。 ・当院のがん治療の診療体制を管理・運用する組織として、がん治療部門、がん相談支援・診療連携部門、緩和部門、がんリハビリテーション部門、がんゲノム医療部門、がん生殖部門の6部門からなるがんセンターを設置し、患者に適切な治療を提供している。多職種の診療スタッフによる検討会等を定期的に開催し、職員のスキルや知識向上を図っている。また、がん相談窓口の設置やがん患者サロンの開催、パンフレットの設置等を行い、がん患者へのサポートや交流の場を提供している。放射線治療機器や無菌治療室等のがん治療に必要な設備等を有し、さらに2022年1月にがんの温熱療法の1種である高周波式ハイパーサーミアシステムを導入し、温熱によるがん細胞の破壊効果だけでなく、外科治療(手術)、化学療法や放射線治療に併用し、それぞれの治療効果を高めている。また2023年2月より放射線治療専門医を常勤医師として1名迎え、4月に放射線治療科を新設し、放射線治療部門の強化を図ることで、がん治療の大きな強みとなっている。また、AI技術により医師をサポートする胸部X線画像診断支援ソフトウェアを導入し、より安心できる医療の提供に努めていく。①呼吸器内科医師(3名)の充実、②放射線治療の充実、③AIサービスの開始の3つを柱とした呼吸器センターを新設し、充実した医療が提供できる体制を構築した。その結果、2024年4月に地域がん診療連携拠点病院に指定され、引き続き質の高いがん診療を提供している。また、2024年12月に、がんゲノム医療連携病院に指定され、がんゲノム医療にも積極的に取り組んでいる。 ・2025年6月に西館の新設に伴い、最新の放射線治療機器「Radixact®(ラディザクト)」を導入し、強度変調放射線治療「IMRT」を用いた先進的な放射線治療を行えるようになった。 ・外科系医師による手術の実施件数が増加する中、麻酔科医の重要性が高まっている。当院では、常勤の麻酔科医13名(内、指導医7名、専門医3名)により患者が安全かつ適切な手術を受けられるよう麻酔の安全管理と質の向上に努めている。2022年12月より術後疼痛管理チームの運用を開始し、多職種のスタッフによる患者の疼痛管理を実施している。 ・放射線診断は、放射線診断専門医(4名)による画像診断を実施しており、各診療科とのダブルチェック体制を完備し、病変の見逃しの回避と適切な運用、評価を可能にしている。また近隣の連携医からの画像検査依頼に積極的に取り組んでおり、その画像診断業務にも携わっている。 ・病理医4名(指導医2名、専門医1名)により病理診断を実施している。通常の病理組織検査の他、術中迅速病理診断にも対応しており、これにより適切な手術方法が選択でき、医療の質の向上につながっている。当院の剖検件数は、2024年度に全国2位(日本内科学会誌)となり、剖検を通して初期研修医教育に力を入れ、日本の医療の進歩に大きく貢献している。 ・地域医療連携推進法人は、当院の法人である社会医療法人蘇西厚生会、美濃市、海津市医師会により、美濃国地域医療リンケージを発足し、その後、羽島市民病院、小林内科が参画した。医師の人事交流やシャトル便による職員及び患者の送迎や病理診断での連携、医薬品・医療材料の共同購入交渉を開始している。 ・2024年8月より腹腔鏡手術支援ロボット「ANSUR(アンサー)」を導入し、安全性と質を維持した低侵襲手術を外科医師1名での実施が可能となっている。 ・2025年4月より、ペットお預かりセンターを開設し、患者が急性期(手術前後等)の時は、松波総合病院で入院し、敷地内に設けたペットお預かりセンターに預けているペットと定期的に病院内で会えるようにする。急性期を過ぎた患者は、ドッグランを整備している海津市医師会病院の病棟内でペットと療養(With Pet Ward)できるよう体制を整えた。	○		○	○	○		○脳卒中対策について 当院の特徴を生かして、急性期、回復期等の各期に応じた医療を適切かつ切れ目なく提供できるように、地域との連携協力体制(連携パスなど)の更なる強化を図り、地域内での脳卒中対策の中心的役割を担っていく。 ○糖尿病対策について 糖尿病のスペシャリストが多数勤務(指導医3名、専門医3名:計6名)(指導医5名、専門医3名:計8名クリニック含む)しており、医療資源が豊富である為、地域の医療機関との連携が可能である。また糖尿病センターを設置し、糖尿病合併症に対する専門的な治療も各診療科の専門医との共同により質の高い治療の提供が可能である。このように専門医とかかりつけ医の連携、さらに各診療科との共同が可能であることから、岐阜圏域での基幹的医療機能をもつ医療機関として、地域内での糖尿病対策の中心的役割を担っていく。 また、糖尿病をはじめとする生活習慣病の根本的改善には、適切な食事の摂取と運動能力の向上が重要となっており、生活習慣病患者やその予備軍の方々に、安全で効果のある運動療法を提供する施設として医療法42条施設(疾病予防運動施設)の運営を行っていく。 ○精神疾患対策について 精神科の常勤医師および認知症認定看護師を中心に、薬剤師、看護師、作業療法士、公認心理士等の多職種によるチームの支援体制で、認知症患者のケアに取り組んでいる。 認知症患者ができる限り住み慣れた地域で生活続けるために、医療と介護の連携を行い、総合的なケアが提供されるように支援していく。 また、認知症を中心とした精神疾患患者の受け入れるため精神科病棟の開設を予定している。 また、今後は地域医療・介護施設等および地域住民に向けての啓蒙活動として講習会などの情報発進を行っていく。	

NO	状況	医療機関名	所在地	自施設の現状等	2026年度末に向けて担うべき役割等	病床機能等の見直し						
						① 病床 機能	② 病床数	③医療 機関の 役割	④ 連携、 再編	⑤ その他	⑥ 現状 維持	具体的な内容
34	変更	松波総合病院	笠松町	【課題】 ○岐阜圏域南部の急性期医療・救急医療について 岐阜圏域では当院の他に、岐阜大学医学部附属病院、岐阜県総合医療センター、岐阜市民病院の4施設が急性期医療の中心的役割を担っている。当院は屋上にヘリポートを設置しているが、現状、年間数例の利用しかされておらず、今後ヘリポートの利用件数を増やす必要がある。岐阜圏域において当院は最も南部に位置しており、近隣の羽島市民病院と、より連携を深め、急性期医療・救急医療において岐阜圏域南部の中心的役割を担っていく病院として一層の機能の充実と体制強化を図る必要がある。2024年6月に発足した「岐阜南部救急医療をスムーズにする会」における施設間搬送を充実させ、医療資源に適した患者の受入を可能にしなければならない。 ○災害医療について 地域災害拠点病院としての責務を果たすため、DMATを2チーム編成しており、災害対応の職員の危機管理意識の向上、「松波総合病院災害対策マニュアル」に基づいた、より具体的な災害実働訓練（災害発生時の各職員の役割分担の徹底）を実施しているが、広域（愛知県含む）における災害訓練を行う必要がある。さらに近年の気候変動による水害の発生が懸念されるため、近くを流れる木曽川の氾濫を想定した水害訓練を継続的に笠松町と共同で実施する必要がある。また、BCP（事業継続計画）の定期的な見直しを図らなければならない。 ○周産期医療について 岐阜県内の産婦人科・産科医師数は、減少傾向にあるが、当院は岐阜圏域の岐阜南地域における二次周産期医療機関（周産期医療協力病院）としての責務を果たしている。今後、分娩を取り扱う医療機関が減少していく中、二次周産期医療機関の機能を維持する為に、産科医の確保が重要である。また、笠松町育児ほほえみ相談等の産後ケアの対応も行政と協力して対応しているが、更なる充実した周産期医療が提供できる体制づくりを図っていかなければならない。 ○質の高いがん診療の強化 岐阜県がん対策推進計画を踏まえ、地域がん診療連携拠点病院として、当院が岐阜圏域でがん診療に果たす役割を十分考慮した上で診療実績、人的配置、地域連携、相談支援、人材育成、臨床研究等に関する取り組みを充実していく必要がある。また、我が国に多いがん（肺、消化器、乳、婦人科、泌尿器、血液）について、更なる診療体制の充実を図っていかなければならない。 ○急性心筋梗塞対策について 急性心筋梗塞の医療提供体制において、当院は心臓CT検査や心臓カテーテル検査などの必要な検査・専門的治療を24時間提供する医療機関（心臓カテーテル治療施設）であり、冠動脈バイパス手術などの外科的な治療も可能な医療機関（心臓外科治療施設）でもある。また心大血管リハビリテーション料（Ⅰ）の届出を行っており、早期治療や再発予防、早期リハビリ、危険因子の管理等が行える体制にあることから、関係機関との連携体制の更なる強化を図っていく必要がある。また、大動脈弁狭窄症の新しい治療法であるTAVI（経カテーテル的大動脈弁置換術）の実施施設として2022年8月に認定され、2022年10月に実施施設認定後、初の症例を行っており（2023年度実施件数：23件、2024年度実施件数：31件、2025年度実施件数：23件）、2026年度より低侵襲心臓手術（MICS）、特に完全鏡視下MICSの第一人者で世界的に有名な伊藤敏明医師（元：日本赤十字社愛知医療センター名古屋第一病院 心臓血管外科 第一部長、現：医療法人徳洲会 湘南鎌倉総合病院 心臓血管外科 統括部長、当院：顧問）をお迎えしてMICSをはじめとする低侵襲治療を積極的に導入している。今後も高度な医療が提供できるよう体制の強化を図っていく必要がある。 ○脳卒中对策について 脳卒中の医療提供体制において、当院は急性期医療機関であるが、回復期リハビリテーション病棟も持つ医療機関でもある。また、脳卒中の発症後のt-PA療法（血栓溶解療法）などの専門的な治療ができる超急性期医療機関として対応しているが、更なる救急体制の充実を図り、救命率の向上を目指す。また脳梗塞の原因となる頸動脈狭窄症の治療について、数多くの手術件数を重ねているが、更なる体制の充実を図っていく必要がある。 ○糖尿病対策について 糖尿病の基幹的医療機能を持つ病院（岐阜医療圏7施設・但し岐阜大学病院を含む）および糖尿病合併症に対する専門病院（網膜症、慢性腎不全、心血管障害、末梢血管障害、脳血管障害）として、また多くの糖尿病のスペシャリスト（指導医3名、専門医3名：計6名）（指導医5名、専門医3名：計8名クリニック含む）を有する医療機関として地域内での中心的役割を担っているが、肥満が原因で糖尿病になる患者が急増しており、肥満外来などの専門性の高い診療を充実していくことが求められる。 ○精神疾患対策について 後期高齢者社会となる中、入院・外来患者への精神疾患治療体制を充実していかなければならない。入院患者に対しては、せん妄予防や認知症ケアなどの診療体制の充実を図っていく。また、がん患者をはじめとする緩和ケアを必要とする患者に対して、充実した緩和ケア医療が提供できる体制を確保していく。3床の専門病棟を開設予定。 ○在宅医療支援の推進 高齢化社会となり、在宅医療は、重要医療事業の一つに追加され、今後益々重要性が増してくる。当院は在宅療養後方支援病院として、羽島郡医師会と協同して、地域の在宅療養支援診療所及び介護サービス事業所や当法人の訪問看護・介護事業所との連携による急変時の患者の受け入れ強化や在宅医療を担う近隣医師へのサポート体制の充実を図らなければならない。 ○共同利用の推進 当院では、近年ダヴィンチXi、3 テスラMRIや360 列CT等の高額医療機器を整備し、高度な医療提供体制を整えている。今後、更なる地域の医療機関と密接な連携と機能分担を図り、共同利用を推進することで、無駄な医療費の削減を目的とする医療資源の効率的活用を図らなければならない。	○		○	○	○		○在宅医療支援の推進 医師、薬剤師、看護師、理学療法士、作業療法士、管理栄養士、ケアマネージャー等の多職種が各々の専門知識を生かし、積極的に意見交換や情報共有を行い、在宅療養後方支援病院として、地域の在宅療養支援診療所及び介護サービス事業所との連携を更に深めていく必要がある。また当法人の訪問看護事業所との共同による急変時の受け入れを強化することにより、チーム医療での患者やその家族に対し、質の高い在宅医療を提供できる体制を整備していく。 ○統合医療の導入 アロマ療法、音楽療法、電気療法、漢方、鍼灸などの一般的には補完医療として軽視されがちな医療を取捨選択して、当院の西洋医療の高い知識・技能を補い、より患者が満足する医療の提供を目指していく。 ○歯科口腔外科の機能強化 歯科口腔外科の更なる機能強化を図るため、現在の診療場所より移設し面積を拡大しその結果、診療台数、歯科医師数を増加し、診療体制の充実を進める。国の皆歯科健診の方針をふまえ周術期の口腔ケアを充実させるため、あわせて訪問歯科診療を開始し、在宅療養患者等への歯科医療の充実を図っていく。□ ④複数医療機関による連携、再編（役割分担の明確化・変更、医療機能の集約化、医療機関の統合、地域医療連携推進法人の設立等）の実施 ○地域医療連携推進法人の設立 岐阜圏域においては、岐阜大学医学部附属病院を中心に、岐阜県総合医療センター、岐阜市民病院、松波総合病院が、治験・臨床研究のほか、医薬品や医療機器に関する情報交換や医師をはじめとする人材育成等での連携を行う『岐阜医療圏地域コンソーシアム』を設立し、活動を行っている。 ○地域医療連携推進法人の設立 当院の法人である社会医療法人蘇西厚生会、美濃市、海津市医師会との地域医療連携推進法人として、美濃国地域医療リンケージの設立を行った。人事交流や共同購入などを進めるとともに、地域医療構想に則し、それぞれの区域に効率的かつ安定的な機能分化体制を構築し、各法人が「適正な役割分担」を担うために必要な連携を行う。2026年1月には、新たに羽島市（羽島市民病院）が参画し、2026年6月には、小林内科が参画したことで、地域における効率的かつ持続可能な医療提供体制を構築する。	

NO	状況	医療機関名	所在地	自施設の現状等	2026年度末に向けて担うべき役割等	病床機能等の見直し							
						① 病床 機能	② 病床数	③医療 機関の 役割	④ 連携、 再編	⑤ その他	⑥ 現状 維持	具体的な内容	
34	変更	松波総合病院	笠松町	【2026年度末に向けて担うべき役割等】 ○岐阜圏域南部の急性期医療・救急医療について 岐阜圏域では当院の他に、岐阜大学医学部附属病院、岐阜県総合医療センター、岐阜市民病院の4施設が急性期医療の中心的役割を担っていく。この中で当院が最も南部に位置していることを踏まえ、3病院の指導・協力を受けながら、岐阜圏域南部の急性期医療、救急医療の中心的役割を担っていくべきである。その一環として、消防機関と連携して救急ワークステーションを実施し、「ドクターカー」などで医療が現場へ出ていく体制作りを整え、迅速な救急医療の提供に務める。また、当院の屋上ヘリポートを活用することで、遠隔地からの「ドクターヘリ」による患者搬送を積極的に受け入れることができ、早期医療介入と救命率の向上を目指す。また、救命救急センターとして、より高度な医療・重篤な患者の受入れに努めていく。 ○がん診療について がん治療部門、がん相談支援・診療連携部門、緩和部門、がんリハビリテーション部門、がんゲノム医療部門、がん生殖部門の6部門からなるがんセンターを中心に患者に適切な治療を提供しているが、今後は、がんに関わったことによるがん患者の生活や将来への不安、苦痛の緩和といった面の支援にも力を入れ、地域や社会との連携強化を図る。その結果、2024年4月に地域がん診療連携拠点病院の指定を受けた。岐阜医療圏南部のがん診療を担い、質の高いがん診療を提供できるよう務めていく。また当院には、遺伝子治療に精通した認定遺伝カウンセラーが1名所属しており、ゲノム医療といった新しいがん診療領域への体制の強化を図る一環として、がんゲノム医療連携病院の指定を受けた。今後は、がんゲノム医療の推進を図っていく。 ○災害医療について 大規模災害訓練等を実施しているが、今後は広域（愛知県含む）での医療・介護施設および 各行政との連携を踏まえた災害医療提供の訓練を実施し、DMAT、AMAT、JMATをはじめ災害に備えた医療体制の提供およびBCPの更なる構築を目指す。 ○へき地医療について 2021年4月にへき地医療拠点病院の指定を受け、社会医療法人の使命としてより広範囲のへき地における医療体制の維持に努めていく。 ○新興感染症発生・まん延時における医療対策について 2024年2月に「第一種協定指定医療機関」「第二種協定指定医療機関」の指定を受け、平時より感染症の予防及び体制の維持に努めていく。 ○周産期医療について 岐阜圏域南部における周産期医療協力病院としての責務を果たしてきているが、産後ケアも含めた対応が必要であり、今後も更に行政（笠松町育児ほほえみ相談）との連携を含めて、より広範囲な地域での産後ケアの拡大に努めていく。 ○小児医療について 引き続き小児医療（小児救急も含む）も提供していくが、更に小児発達障害児等の増加に対して、2021年4月に開設した『こころの発達診療センター』を中心に、医師、看護師、公認心理士、言語聴覚士などの様々な専門スタッフがそれぞれの専門性を活かしたサポート体制の強化を図っていく。		○		○	○	○		○	⑤その他 ○医療機器および病床の共同利用の推進 地域の中心的医療機関として、開放型病床あるいは放射線治療装置やPET装置等の共同利用を目的とした高額医療機器を整備し、共同利用施設として地域の医療機関との密接な連携と機能分担の促進、医療資源の効率活用を図り、地域医療水準の向上を推進していく。 また一方で、圏域内で同様の高額医療機器が多数導入されており、この点においては、無秩序な導入を避け、共同利用の促進などによってその利用の効率化を図らなければならない。その為、高額医療機器の導入については、圏域内で協議する組織を作りたいと考えている。 ○医療法42条施設の開設 2025年6月に完成した新館には、運動だけでなく食事や睡眠といった健康に必要なものに対し、ヘルスケアオートメーション（健康の自動化）の実現を進めているFIT-EASY（フィットネスクラブ）を設置した。施設内では、医療監視下のもと約130名のリハビリ職による専門的な運動療法を行える医療法42条施設を開設することで、地域住民の健康維持・増進や生活習慣病などの予防を行っている。
35		福富医院	岐阜市	【現状、特徴】 岐阜市内で小児が入院できる病院は4病院である。当院は有床診療所であるが小児科医が常駐しているため、小児にとっては5番目の施設である。小児の一時的な急性期の入院できる医療機関としての役を果たしている。また地域の高齢者においても一時的な感染症の悪化時にも対応している。 【課題】 看護師の人材確保に苦慮している。休日にも勤務が振り分けられるため相対的な看護師不足である。地域的に北部にあるため看護師の人材確保が課題である	小児の感染流行時は大きな病院であっても癌や慢性の疾患の入院が多く、急性期の病床には限りがある。そのため感染流行期には他の小児科からの紹介入院もある。そのため有床診療所であっても開放型の病床を設置し、地域の診療所に役立つ診療所としての役割を担う							○	病床に対する医療ニーズは大きいものの、病床の増床が困難であるため
36		服部耳鼻咽喉科	岐阜市	【現状、特徴】 地域医療 【課題】 当院は耳鼻咽喉科の特に専門的な手術や検査を行っている施設である。 高齢の患者数が増加していることから、その件数は今後も変わりが無いと思われる。 それを維持するためには看護婦や検査技師などのスタッフの育成が必須であるが、なかなか人材が集まらないのが現状である。 よって今後、新たな人材を確保することが課題である。	特に睡眠時無呼吸症候群の検査と診療、高齢者に対する補聴器外来などの分野で専門性の高い医療を提供する。							○	新型コロナウイルス感染症によって入院患者数が減少したことにより病床数の見直しを検討したが、次第に以前の状態に戻りつつある

NO	状況	医療機関名	所在地	自施設の現状等	2026年度末に向けて担うべき役割等	病床機能等の見直し						
						① 病床 機能	② 病床数	③医療 機関の 役割	④ 連携、 再編	⑤ その他	⑥ 現状 維持	具体的な内容
37		医療法人令明会 ゆりレディースクリ ニック	岐阜市	【現状、特徴】 入院については産科医療に特化している 【課題】 コロナによるお産数の減少	地域の産科医療に貢献						○	地域の状況、ニーズを踏まえて、現状維持 に努めていく
38		医療法人内田眼科	岐阜市	【現状、特徴】 当院では、白内障手術や硝子体注射を要する患者さんを入院でケアすることがある。 【課題】 対象の患者さんが高齢の方が多く、又、視力が悪いため、看護師が付き添い転倒防止など気を付けている。	今後高齢者の割合が増加すると思われ、QOLの改善のため、白内障手術の増加が見込まれる。一部の入院が必要な方のために病床を維持する役割がある。						○	今後国の方針で白内障手術が外来でのみ 行われる可能性もあり、症例数は増える見 込みだが、入院数は増える見込みは少ない と思われるため。
39		医療法人誠優会 石原産婦人科	岐阜市	【現状、特徴】 2年前に新病棟移転に伴い分娩数急増のため増床も視野 にいている。 【課題】 近隣地域の産婦人科閉院に伴い、妊婦さんのみならず、婦 人科疾患の患者さんが増加しており現在の医師数、部屋数 では対応困難なこともあり。	できる限りスタッフおよび旧病棟の活用により増床も考えて はいるが、財務的な問題や医師の確保は難しいのが課題						○	増床や医師の補充などをしてはいきたい が、現状は財務的な問題もあり現状維持が 精一杯
40		芥見診療所	岐阜市	【現状、特徴】 地域に根差した医療と介護事業所との連携 【課題】 現在休棟中のため、今後の計画が必要になってくる	現在休棟中のため、今後の計画が必要になってくる					○		検討中
41		大橋・谷 整形外科	岐阜市	未回答								
42		佐久間眼科医院	岐阜市	【現状、特徴】 白内障手術時の日帰り・一泊入院で使用している 【課題】 無床診療所への変更も考えているが、もうしばらく有床を続 ける予定です。	無床診療所への変更も考えているが、もうしばらく有床を続 け予定	○	○					無床診療所への変更を予定している
43		あいレディースクリ ニック	岐阜市	【現状、特徴】 なるべく自然にこだわったお産 【課題】 不妊治療の充実	少子化、産婦人科医不足の中で、不妊治療と分娩施設の維 持発展						○	分娩施設が減少していく中で、安全で自然 なお産を提供
44		大塚レディースクリ ニック	岐阜市	【現状、特徴】 産科施設のため特になし、分娩時やその後の入院がメイン となる 【課題】 特になし	少子化に向けて、分娩数の維持および増加に努める						○	分娩施設の減少に伴い、現在と同等のベッ ド数を 維持するのが重要なため
45		宮崎レディースクリ ニック	岐阜市	【現状、特徴】 産婦人科として、地域の女性の疾病、出産に対応している 【課題】 主として正常分娩の患者さんを対象としているので、感染症 の入院は不可、高齢者の慢性期の入院も受け入れられない	分娩数の減少に伴い、急性期ではなく、感染症ではない内 科疾患の患者の入院受け入れを検討する			○	○			異常妊娠・突発的な異常分娩・新生児仮死 などの救急を要する場合は、センター的 な役割の医療機関へのスムーズな受け入 れ体制の確立、連携が重要である
46		くまざき内科	岐阜市	【現状、特徴】 医療必要度が高く、長期療養が必要な方への医療提供。 【課題】 人員の確保と人件費の高騰。	医療必要度が高く、長期療養が必要な方への医療提供。						○	地域のクリニックとして求められている役割 を継続していく方針。

NO	状況	医療機関名	所在地	自施設の現状等	2026年度末に向けて担うべき役割等	病床機能等の見直し						
						① 病床 機能	② 病床数	③医療 機関の 役割	④ 連携、 再編	⑤ その他	⑥ 現状 維持	具体的な内容
47		高橋眼科医院	岐阜市	【現状、特徴】 開設以来、地域に根差した医療サービスを提供しているクリニックです。一般診療を行うほか、白内障の日帰り手術や小児の近視進行の予防治療、斜視・弱視外来などの治療に力を入れています。 【課題】 看護師不足	岐阜市にある眼科クリニックです。患者さんのかかりつけ医としてコミュニケーションを重視し、分かりやすい診療を目指します。白内障・緑内障・斜視・硝子体手術も行っており入院設備も整っています。近視進行予防などの予防医療・アイフレイルにも取り組みます。						○	現状のままで問題ないないため
48		桑山眼科	岐阜市	【現状、特徴】 ①緑内障患者の失明の予防に努めている。 ②加齢による白内障で視力低下する患者の治療に努めている。 ③スタッフの半分以上が10年以上勤務しているため、かかりつけの患者様がコミュニケーションを取りやすい環境にある。 【課題】 開院して30年経つため、建物の構造上(土足の脱ぎ履き、車椅子の出入り口等)高齢者や身障者の方々がもっと利用しやすい環境にできるようにしたい。	①視野狭窄による失明予防に努める。 ②糖尿病患者の食事指導の導入。						○	・病床を利用するのが手術の時のみであり、手術も日帰りなので病床使用時間は数時間程度。 ・白内障手術時の高齢患者様の休息等に必要なから。 ・患者数は現状維持の為。 以上のことから現状維持で問題ないと判断。
49		基生会 おおのレディースクリニック	岐阜市	【現状、特徴】 産科施設 【課題】 医師確保、施設の老朽化	出生数の減少してるなか、不妊治療に力をいれ月あたり妊娠30人を目標に取り組む						○	地域の状況、ニーズを踏まえて、現在の医療機能の維持に努める。
50		野川眼科医院	岐阜市	【現状、特徴】 白内障手術を主とした内眼手術を毎週火曜日に行っている 【課題】 稼働率、採算性、人手不足、コロナ感染対策	短期滞在手術等基本料1の算定を考えるが、なお独居老人等の白内障手術の際、一泊入院を希望するものがあり、有床診療所として継続するか思案中						○	短期滞在手術等基本料1の算定を考えるが、なお独居老人等の白内障手術の際、一泊入院を希望するものがあり、有床診療所として継続するか思案中
51		しま医院	岐阜市	【現状、特徴】 休床中 【課題】 建物の老朽化、人材の高齢化、人手不足	未定		○			○		手続きはこれからだが今後廃床予定。
52		はっとりクリニック	岐阜市	【現状、特徴】 睡眠時無呼吸症候群の検査用で運用しています。 【課題】 特になし	睡眠時無呼吸症候群の検査用で運用 予定						○	睡眠時無呼吸の検査として運用
53		岐阜メイツ睡眠クリニック	岐阜市	【現状、特徴】 重度の睡眠時無呼吸症候群や睡眠中に多発するてんかん発作、うつ病やナルコレプシーなどの重篤な睡眠障害を伴う患者に対して、終夜睡眠ポリグラフィーや反復睡眠潜時試験(MSLT)等により診断を行い、病状の早期安定化に向けた医療を提供している 【課題】 増え続ける睡眠障害患者の受け入れ	深夜労働や交代勤務に従事する人が増え、すべての事に24時間対応が迫られる現代社会において、今後も睡眠障害患者の診療は重要な役割を果たす						○	当院は専門性が高く、今後も同様の役割を果たしていく
54		矢嶋小児科小児循環器クリニック	岐阜市	【現状、特徴】 小児在宅医療での医療型短期入所目的の病床であり、一般診療における入院病床ではない	現状では上記用途のみで、一般入院の扱いは検討していない						○	小児在宅医療に特化しているので病床は医療型短期入所目的
55		松原医院	岐阜市	【現状、特徴】 地域医療の確保・終末期の医療、介護の提供 【課題】 職員の確保・施設の老朽化・後継者問題	終末期の医療、介護の提供					○	○	職員不足が解決すれば現状維持をしたい

NO	状況	医療機関名	所在地	自施設の現状等	2026年度末に向けて担うべき役割等	病床機能等の見直し							
						① 病床 機能	② 病床数	③医療 機関の 役割	④ 連携、 再編	⑤ その他	⑥ 現状 維持	具体的な内容	
56		松岡整形外科・内科リハビリテーション	岐阜市	【現状、特徴】 岐阜市を中心に、医療・介護・福祉・保育サービスを展開し、地域の人々が住み慣れた地域で暮らし続けられるように、愛される施設づくりを我々のライフワークとして邁進しています。なかでも運動器系統の機能障害と形状変化の予防と治療に力を入れています。 【課題】 地域の高齢化により腰痛、膝、脊椎等整形外科分野対象の健康寿命を永くするためにも痛みを取り除く手術は必須になってきます。今は簡単にできる手術も増え、リスクも少なくなっており、今後は手術件数も増える見込みの為、2023年11月より一般病床を1床から13床に(療養病床を18床か6床)変更して地域医療に貢献する所存です。	高齢者に多い骨折や脊椎の手術を積極的に行い、入院治療とリハビリを提供することで在宅復帰や介護サービスに結び付けていく。 特に在宅復帰後も馴染みのある地域で暮らしていけるよう地域医療の発展に貢献する役割を担う。	実施済み							総病床数19床のうち、2023年11月より一般病床を1床から13床に、療養病床を18床から6床変更
57		阪野クリニック	岐阜市	【現状、特徴】 岐阜県では珍しい睡眠障害を専門に診療している診療所です。県外の基幹病院からも、紹介されています。 【課題】 睡眠障害で悩む人が多くなり、精密検査の待ちが長くなっています。今後、、スムーズに検査が出来る体制が必要です。	子供の睡眠障害を診察する病院が少ないので、小児の睡眠医療を拡充します。同時にメンタルヘルス不調の不眠を解消して、社会復帰できるようにしたいです。						○		睡眠障害の患者が多い状況下の早期安定化を提供していきます。
58		高橋産婦人科	岐阜市	【現状、特徴】 体外受精等、生殖医療を中心とした地域の少子化対策 【課題】 地域の少子化に伴う出生率の低下を少しでも改善出来るよう当院に出来る限りの現状を維持しつつ生殖医療に邁進する。	少子化問題を真摯に受け止め、より一層の精進に努める。				○				令和8年1月頃を目途に17床のうち9床は新たに開設予定の「高橋レディースクリニック」に移設整備します。既存の病床を分院へ適切に再配置するものであり、全体として病床数の増減は伴いません。
59		医療法人高井外科	岐阜市	【現状、特徴】 組織的な医療経営を行い、且つ、化学的外科医療の設備その他を充実すると共に、適正なる医療を行う 【課題】 社会の変化に対応すべき、合理的ない医業経営を行うこと	看護婦や医療人の養成を行う						○		患者さんのニーズが同じなため、現状維持を行う
60		古田産科婦人科クリニック	岐阜市	【現状、特徴】 駅前の比較的通院し易い立地に恵まれ、体制の変化に伴い最近15年間の患者数は増加傾向にあります。但し、近年の少子化の影響は大きく、平成27年(西暦2015年)12月末に分娩業務のみ停止しております。不妊治療で望みが叶い妊娠された患者や幸運にも自然妊娠された患者様につきましては、夫婦のご希望、ご家庭の事情等を良く伺い、ご希望に沿った分娩施設選定の手助けを行っております。 【課題】 妊婦さんの安心の為に早期から分娩予約のお手伝いもしております。その上で希望者には妊婦健診を、約30週前後まで健診をしております。周産期は何かおこっても不思議ではない為、必要時は総合病院に転院手配ができ、安心して出産を迎えられるように万全なバックアップ体制を維持することが課題であると考えております。また患者数の増加に伴う環境の変化にも柔軟に対応できる体制を常に整えておくことも当院の課題であります。	コロナ関連等、予期せぬ患者数の増加或いは仕事量の増加に慌てることもなく、柔軟に対応ができる環境を整備しつつ維持していきたいと考えております。現在、高度生殖医療をはじめとする不妊治療や婦人科疾患の患者数が増加しております。しかしどちらの患者も高齢化が進んでおります。是まで以上に内科系を始め他の医療機関との連携や健康維持の啓蒙活動の役割も担う必要性が高あると考えております。						○	不妊治療や婦人科疾患の患者数は大きく変化しないと考えられ、治療(手術)も引き続き実施し、現状の病床機能を維持していくことになると思います。其の為大きな変更予定はありません。	
61		操健康クリニック	岐阜市	【現状、特徴】 特になし 【課題】 特になし	安心、快適な生活を受診者に送っていただくため、人間ドック、健診を通じて、病気の早期発見、早期治療を引き続き目指す。						○		今迄通り、大学病院、市民病院等の大規模病院との連携を強化する。
62		おぐら産科婦人科クリニック	岐阜市	【現状、特徴】 妊婦健診、正常分娩、婦人科診療やがん検診 【課題】 開院したばかりであり診療を軌道にのせること	現状の維持						○		

NO	状況	医療機関名	所在地	自施設の現状等	2026年度末に向けて担うべき役割等	病床機能等の見直し						
						① 病床 機能	② 病床数	③医療 機関の 役割	④ 連携、 再編	⑤ その他	⑥ 現状 維持	具体的な内容
63	新規 策定	高橋レディースクリニク	岐阜市	【現状、特徴】 2026年5月開院し、産婦人科を主体とし、入院手術を自施設にて実施 【課題】 不妊治療が保険適用化になり入院患者数増加傾向。病床稼働も適正。今後は病床数適正化を検討し実態に合わせた数値を協議する	現状維持						○	
64		田中整形外科	羽島市	【現状、特徴】 主に手術時の1日、2日の入院用として病床を持っている。 【課題】 地域においては外来手術、1日入院手術の医療機関は存在価値があると思うが、現状としては手術が少ないのでスタッフの増員等の予定もないし、これ以上の対応をする予定もない。	地域においては外来手術、1日入院手術の医療機関は存在価値があると思うが、現状としては手術が少ないのでスタッフの増員等の予定もないし、これ以上の対応をする予定もない。		実施 済み					手術患者、入院患者さんの減少、看護師不足、医師、看護師の高齢化等のため、令和7年9月に急性期を4床削減しました。（うち、病床数適正化支援事業にて2床削減）
65		アイリスベルクリニック	羽島市	【現状、特徴】 当院では、周産期医療のプロフェッショナルとして、すべての社員が協力し合い、すべての患者様に対して最新の知識、最大の安全性、最善の倫理観をもって、常に優しく誠実に診療にあたり、社会に広く信頼され、人々の健康と幸せに大きく貢献ができる様、真摯に研鑽と努力を続けてきました。 ◆診療実績 月平均分娩数＝21.0件（2022年1月～6月実績） 【課題】 分娩再開から約1年であり、患者を受け入れる余力がまだ十分あるため、地域医療に更なる貢献をしていきたいと考えております。	分娩を継続していき、地域の周産期医療を支えていきます。						○	周産期医療機関であり、特段見直しを必要としないため。
66		あさこう眼科クリニック	羽島市	【現状、特徴】 白内障手術後の治療 【課題】 特になし	現在と同様の役割を担う。						○	眼科クリニックであるため、現在と同様の機能を継続する必要があると考えられる。
67		たかはし眼科クリニック	羽島市	【現状、特徴】 眼科一般診療 【課題】 眼科一般診療のため、これまで通り外来を中心とした診療を行う	眼科一般診療						○	眼科一般診療のため、手術後の回復期のみ病床を利用している
68	変更	各務原第一外科	各務原市	【現状、特徴】 入院機能としては、主に併設老人保健施設入所者急変対応をおこなっている。急性期病院で入院の適応とならない患者の受け入れニーズに対応していた。 【課題】 急性期病院からの紹介はなく、また回復器リハビリテーション病棟のような体制ではないため今後ニーズが増加する可能性は低いと予測され、在宅医療の拡大により有床診療所入院ニーズは減少している。	老人保健施設入所者の急変対応や、看取り、リハビリテーション希望者の受け皿となる余地はある。		○					
69	変更	医療法人おると会 榊原整形外科	各務原市	【現状、特徴】 令和4年、院長の代替わりにより、自院で行われる手術症例が大幅に見直された頃、同時期コロナのパンデミックにより患者の病床利用の流れが大きく変わっていった。現在は地域急性期医療のひっ迫により圧迫骨折患者の受入れや、「医療あんしん病床確保事業」により独居高齢者の有事の受け入れ先として病床を維持している。 【課題】 ①急性期病床と「医療あんしん病床」利用を目的にした入院によるケアの棲み分け ②地域救急への対応	地域救急医療は場所や診療時間帯により、明らかにひっ迫してきている。当院で行われる一般外傷の受入れや、地域医療病床として患者様有事の受け入れ先は先々も必要性を感じ得る。整形外科有床診療所としてその役割を担う場所であることが当院の責務であるとする		○					

NO	状況	医療機関名	所在地	自施設の現状等	2026年度末に向けて担うべき役割等	病床機能等の見直し						
						① 病床 機能	② 病床数	③医療 機関の 役割	④ 連携、 再編	⑤ その他	⑥ 現状 維持	具体的な内容
70		フェニックス在宅 支援クリニック	各務原市	【現状、特徴】 複雑な病態を持つ患者を主とし、医療提供をしている。今後を考えたときに施設を希望され入院されてくる患者も多い。看取りや認知症まで対応しておりその中でも在宅復帰を常に検討している。 【課題】 リハビリを提供することでさらに能力向上が図れると思われる患者も多いがリハスタッフの人員不足がある。	今後さらに複雑化する医療ニーズや家族ニーズに対応し、今後の療養先をリハビリの進捗具合を確認しつつ適切に検討していく医療機関であり続けたいと考えている。						○	これまでの実績を見ると地域の中で機能分化をしっかりとしており、評価されている医療機関だと自負している。現状維持とは回答したが今後の社会のニーズに適切に柔軟に対応していきたい。
71		フェニックス総合ク リニック	各務原市	【現状、特徴】 外来においては様々な病態の患者が来院しており地域のかかりつけ医としての機能を発揮できていると自負している。病棟においては整形疾患を主としリハビリ機能を特色としており、高い在宅復帰率を維持している。 【課題】 今後さらに増えるであろう在宅系の患者について地域の診療所の先生たちとさらに密に連携を取り合っていきたい	予防医療の推進のための検診や人間ドックをこれからも推奨し、疾病の早期発見、早期治療を目指します。また関連介護施設からの状態変化のある患者を早期にチェックし必要に応じメンテナンスの入院やリハビリを提案し地域包括ケアシステムの基幹となる医療機関を目指す						○	これまでの実績を見ると地域の中で評価されている医療機関だと自負している。現状維持とは回答したが今後の社会のニーズに適切に柔軟に対応していきたい。
72		石田眼科	各務原市	【現状、特徴】 眼科 【課題】 特になし	眼科領域専門のクリニックとして、白内障、緑内障、網膜硝子体、眼形成(まぶた・涙道)、小児眼科(斜視・弱視)それぞれの専門の分野に対応していく。						○	医療ニーズに対して現状対応できていると考え、今後も医療機能を提供していく。
73	変更	小林内科	各務原市	【現状、特徴】 有床診として、外来、入院、在宅等での内科的地域医療への貢献、紹介、連携等による患者受け入れ体制。 【課題】 人口減による患者数の減少傾向、職員等の高齢化等による、新規職員の受け入れへ。	地域医療への維持、在宅診療への充実、慢性期入院の充実、令和8年11月頃により、病床数の削減予定		○		○			②一床の病床数の削減へ。 ④7月より地域医療連携推進法人(松波HP リンケージに参加・入会)に入会等。
74		横山産院	各務原市	【現状、特徴】 現在の病床数にて大きな問題なく対応しています 【課題】 医療資源に限られる中、緊急時に対応できるよう施設間での連絡を密にしていけることが必要と考えました	他施設からの受け入れ可能な症例がある場合は、当院の病床の利用などを考慮していく。そのために自施設の受け入れ体制を構築していく必要がある						○	現状のまま対応し、上記の受け入れの強化や他施設との連携を構築を行っていく方針を考えています
75		医療法人寿康会 村上医院耳鼻咽 喉科	各務原市	【現状、特徴】 耳鼻咽喉科領域の診療所として外来業務が中心 【課題】 上記業務を基幹病院などと連携してスムーズに行うこと	引き続き外来業務を中心に行う	○	○	○	○			病床は手術時に使用する。病床数は変更なし。地域基幹病院の東海中央病院等と連携
76		永田産婦人科	各務原市	【現状、特徴】 地域における主要な有床産婦人科施設 【課題】 少子化進展の状況下でも、地域の産婦人科医療を維持していくこと	経営効率化を図りつつ、地域への医療サービスレベルを維持する						○	地域の産婦人科医療を維持していく必要がある
77		宇土医院	瑞穂市	【現状、特徴】 手術 経過観察 【課題】 なし	手術 経過観察						○	特に問題なし
78		医療法人清光会 名和内科	瑞穂市	【現状、特徴】 地域に根ざした診療所として、地域の皆様にとって一番身近な医療機関を目指しています。丁寧に患者さんの話を聞き取り、適切な医療処置・指導を行っています。 【課題】 突発的な看護師・医療事務不足/入院対応時の看護師・医師の業務負担増	地域医療の基盤として「かかりつけ医機能」を強化する。地域住民がまずは相談できる先として機能させ、重症化予防や医療機関相互の適切な役割分担を促進させる。		実施 済み					病床数適正化支援事業にて令和7年9月30日付で有床診療所の回復期の一般病床を4床から2床へ削減した。継続的な入院患者の受け入れが行えていない中、夜勤看護師・医師の勤務形態の見直しが必要となり削減する方向に至った。
79		堀部クリニック	本巣市	未回答								

NO	状況	医療機関名	所在地	自施設の現状等	2026年度末に向けて担うべき役割等	病床機能等の見直し						
						① 病床 機能	② 病床数	③医療 機関の 役割	④ 連携、 再編	⑤ その他	⑥ 現状 維持	具体的な内容
80		サンライズクリニック	岐南町	【現状、特徴】 消化器内科、循環器内科、放射線科を中心に、生習習慣病をはじめ、様々なプライマリーケアに対する診療を行っている。また、人間ドックをはじめとする健診業務にも力を入れ、早期発見、早期治療に取り組んでいる。また、訪問診療にも取り組んでいる。 【課題】 予防医学、早期発見・早期治療が重要視される中、人間ドック、各種健診、及び高度な医療機器を用いた精密検査により、治療に取り組む。さらに病状によっては、専門性の高い連携医療機関に紹介し、治療に繋げる。また、引き続き訪問診療に注力する。	予防医学の観点から、人間ドック、各種健診業務（施設・バスによる巡回）に、引き続き力を入れて取り組み、早期発見・早期治療に繋げる。また、近隣の連携医療機関とは、引き続き連絡を密にし、地域に根付いた医療機関を目指す。						○	月に1回程度、大腸ポリープの切除手術を行っており、手術当日患者を入院させるため病床を使用している。
81		赤座医院上印食診療所	岐南町	【現状、特徴】 地域のかかりつけ医 専門は内科、呼吸器アレルギー科で睡眠時無呼吸症候群の診断、治療、気管支喘息の治療に力を入れる。 在宅医療も行っている。 【課題】 大病院との移行、関連 処方 の多様化における院内処方の限界	かかりつけ医機能重視 在宅医療、認知症対応、特養ホームの嘱託医、学校医、産業医の役割が増すであろう。						○	バランスはとれている。 特養ホームの嘱託医、産業医、学校医、地域医師会理事としての役割もある。
82		総合在宅医療クリニック	岐南町	【現状、特徴】 診療所所在地から10km圏内を中心に、医師による訪問診療の他、看護師・歯科医師・歯科衛生士・管理栄養士・PT・ST等多職種による訪問サービスを提供している。小児については、訪問サービスの他、外来リハビリテーションや、病床の空床利用という形で医療型短期入所サービスも提供している。 研修医・大学からの研修生などを積極的に受け入れ、教育・人材育成に注力している。 【課題】 ニーズに対してサービスの供給が十分でない領域（歯科・小児等）における人材採用・育成	・在宅医療・小児領域を中心に、需要はあるが供給が十分でないサービスを提供するための人員確保・育成に注力し、在宅患者がアクセスできる医療資源の最大化に努める。 ・在宅医療をインフラとするために、在宅医療が普及していない地域へのサポートを行うほか、地域医療を支える総合診療医などの人材育成に注力する。						○	小児を中心とした医療型短期入所利用のニーズは今後も継続・増加していくことが予想され、そのニーズに応えるためには現状の病床数を維持することが適当と判断しているため。

NO	状況	医療機関名	所在地	自施設の現状等	2026年度末に向けて担うべき役割等	病床機能等の見直し						
						① 病床 機能	② 病床数	③医療 機関の 役割	④ 連携、 再編	⑤ その他	⑥ 現状 維持	具体的な内容
83	変更	まつなみ健康増進 クリニック	笠松町	【現状、特徴】 ・当クリニックは、2002年に以前から稼働していた松波総合病院附属診療所から外来部門を強化・発展させ、人間ドック・健診センターを備えるクリニックとして稼働している。また、患者が通院中に症状が悪化し、入院加療が必要となった場合には、松波総合病院に全面的にバックアップしてもらえる体制を整えている。 ・標榜診療科は、20診療科を届出している(2026年7月時点)。 内科、呼吸器内科、循環器内科、消化器内科、血液・腫瘍内科、 腎臓内科、外科、呼吸器外科、心臓血管外科、消化器外科、 乳腺外科、肛門科、形成外科、放射線診断科、小児科、皮膚科、 リウマチ科、精神科、移植外科、臨床検査科 ・がん診療を当クリニックと松波総合病院でそれぞれ行なっていたものを2023年5月より松波総合病院で一括管理し、より効率的で安全・安心ながん医療を提供できるよう体制を整備した。 ・当クリニックが専門性の高い外来診療でかかりつけ医を後方支援することで、お互いの機能の役割分担と連携を行っている。また当クリニックは、多くの専門医が属しており、他疾患の専門家へのアクセスも容易で、特に併存症の多い高齢者の診療に適切な医療を提供することが可能である。 ・地域住民への食事療法、運動療法を含めた生活習慣の改善を通じて健康そのものを増進することに主眼をおいた治療を行い、致命的な疾患をできる限り引き起こさないよう配慮している。 ・院内感染対策は極めて重要であり、クリニック全体として組織的に院内感染対策を十分に講じることが不可欠である。その為、クリニック長のもと院内感染対策室(医師(院内感染責任者)、看護師、薬剤師)を設置し、院内感染防止マニュアルを作成、指針を示すとともに、毎月定期的に松波総合病院と共同して院内感染対策委員会を開催している。また院内感染対策室による週1回の院内ラウンドを実施し、院内感染防止対策の実施状況の把握・指導を行っている。新興感染症・再興感染症(発熱患者)に対応する為に敷地内に発熱外来専用施設を設置し、患者同士による感染防止にも努めている。 ・一昨年度より在宅医療を開始し、法人内の各種専門職と連携を図りながら、最適な医療を提供している。2024年11月より、在宅療養支援診療所の届出を行い、地域住民のQOL向上に寄与している。 ・2025年6月に西館を建設し、岐阜県下最大規模の健診施設を西館3階(人間ドック)と西館4階(宿泊施設)に設置している。女性専用ラウンジを設置することで、女性が安心して検査を受けることが可能になり、また、胃カメラエリアを拡大することで、検査を2列に増設し、受診者の要望に応えやすくなった。また、新たにロコモ検査室を開設し、将来的な要介護リスクへの早期対策を可能とした。さらに、過去その他施設データも管理できる体制を整えた。 【課題】 松波総合病院と協力の下、下記の課題について協議を行い、当クリニックの役割について再検討していく。 ・急性心筋梗塞対策について ・糖尿病対策について ・小児医療について ・認知症対策について ・在宅医療の推進 ・待合室の混雑解消について (診療時間、予約方法の見直しによる院内滞在時間の短縮)	○		○	○	○		①病床機能(高度急性期、急性期、回復期、慢性期)の見直し 人間ドック専用病床として10床有しているが、『急性期』病床として維持していく。 ②病床数の見直し 当院の人間ドック・健診センターでは、精密な検査を利用者に提供するために1泊2日コースを設けており、利用者のニーズに応える為、病床数を維持していく。 ③医療機関の役割(診療科、5疾病6事業等)の見直し 現在、各診療科が垣根を越えて共同体制を敷いており、チーム医療として治療を提供している。国民的な疾患である高血圧、糖尿病、脂質異常症に対しては、人間ドック・健診センターとの共同を図り、地域一体の生活習慣病管理を行うことを目標としている。他医療機関からの紹介や入院診療については、松波総合病院で対応し、その後の継続的な治療については、当クリニックでフォローアップをしているが、患者が外来治療で快適な生活が送れるようにサポートできる連携協力体制の更なる強化を図っていく。 ④複数医療機関による連携、再編(役割分担の明確化・変更、医療機能の集約化、医療機関の統合、地域医療連携推進法人の設立等)の実施 ○地域医療連携推進法人の設立 岐阜圏域においては、岐阜大学医学部附属病院を中心に、岐阜県総合医療センター、岐阜市民病院、松波総合病院が、治験・臨床研究のほか、医薬品や医療機器に関する情報交換や医師をはじめとする人材育成等での連携を行う『岐阜医療圏地域コンソーシアム』を設立し、活動を行っている。当クリニックは、松波総合病院の関連組織として活動及び支援を行っている。 ○地域医療連携推進法人の設立 当クリニックの法人である社会医療法人蘇西厚生会、美濃市、海津市医師会との地域医療連携推進法人として、美濃国地域医療リンケージの設立を行った。人事交流や共同購入などを進めるとともに、地域医療構想に則し、それぞれの区域に効率的かつ安定的な機能分化体制を構築し、各法人が「適正な役割分担」を担うために必要な連携を行う。	

NO	状況	医療機関名	所在地	自施設の現状等	2026年度末に向けて担うべき役割等	病床機能等の見直し						
						① 病床 機能	② 病床数	③医療 機関の 役割	④ 連携、 再編	⑤ その他	⑥ 現状 維持	具体的な内容
83	変更	まつなみ健康増進 クリニック	笠松町	【2026年度末に向けて担うべき役割等】 松波総合病院と協力・協議を行い、当クリニックが担うべき役割について対応していく。 ○かかりつけ医について 外来患者の減少する環境の中、かかりつけ医として健康に関する相談に対応し、最新の医療情報を熟知し、必要に応じ て隣接する松波総合病院をはじめとする専門医、専門医療機関を紹介し、地域医療を支える診療所としての役割をさらに 拡大していく。 高血圧症、糖尿病や脂質異常症などの生活習慣病については、専門医を配置し、継続的に治療・指導を行っているが、 更なる体制の強化を図っていく。病気の予防や早期発見、早期治療を可能にするために、人間ドックへの健診受診にも注 力していく。 ○予防接種について 多くの人が予防接種を受けることで感染症の蔓延化を防ぐことができる。当クリニックでは、小児から高齢者を対象とした 各種の予防接種に対応しており、対象疾患の発症あるいは重症化の予防に務めている。 ○小児医療について 引き続き小児医療（小児救急も含む）も提供していくが、更に小児発達障害児等の増加が考えられ、医師だけではなく公 認心理士・言語聴覚士によるサポート体制強化を図っていく。 ○認知症ケアについて 増加傾向にある認知症患者の医療サポートについて、認知症患者ができる限り住み慣れた地域で生活続けるために、 当クリニックもかかりつけ医として、認知症の早期発見、健康管理や疾患への対応を行い、介護サービスなどと連携し、総 合的に関わっていく。 また当クリニックの精神科医や認知症サポート医は、かかりつけ医への助言などのサポートを行い、地域における認知症 医療・介護などがスムーズに連携し、機能するよう注力していく。 ○在宅医療について 在宅医療の需要は、高齢化の進展などにより大きく増加する見込みで、需要の拡大に対応していく必要がある一方、近 年、医師の高齢化等の問題により医師不足が深刻化しており、在宅医療における医師の負担は多くなりがちである。地域 の需要に応えられるよう、様々な病態に対しても看護師、リハビリスタッフ、薬剤師等、多くのコメディカルの協力を得て、 在宅医療を提供できるよう努めていく。		○		○	○	○	○	⑤その他 ・岐阜圏域南部の地域医療を維持するた めに、現在標榜している診療科を維持して いく。 ・在宅医療の提供体制に求められる医療機 能として①退院支援、②日常の療養支援、 ③急変時の対応、④看取りがある。当クリ ニックの医師は、特に②に留意し、多職種 共同による患者や家族の生活を支える観点 からの医療の提供、緩和ケアの提供、家族 への支援を行う必要があり、体制を整えて いく。 ・岐阜圏域南部に下記のような専門的な医 療を提供する施設がないため、診療科を新 設し、同一法人の松波総合病院と協力し て、地域に医療を提供していく。 ・新興感染症・再興感染症（発熱患者）の対 応については、来院者、病院職員を感染者 から守りつつ、発熱患者対応を迅速に行う ために、敷地内に「診察室UNIT」、CT検査 用の「CT-UNIT」からなるGIFU CUBEを設置 し、発熱外来として運用している。今後も発 熱患者の対応に際し必要と考え引き続き円 滑な運用をしていく。
84		羽島クリニック	笠松町	未回答								
85		さとうファミリークリ ニック	北方町	【現状、特徴】 地域医療を担う上で病床が必要である。 【課題】 特になし	現在内科・整形外科・皮膚科・小児科といった複数の診療科 の診察を行っており、これらを地域のニーズに合わせ、今後 も安定的に提供すること。						○	高齢者の看取りや、病院での加療までは要 しない症状に対する入院治療といった、現 在行っている医療提供は引き続き必要であ る。
86		北方医院	北方町	【現状、特徴】 休床中 【課題】 いずれ入院を再開したいと思っていますが、諸般の事情に より再開の目途がたっていません。	いずれ入院を再開したいと思っていますが、諸般の事情に より再開の目途がたっていません。					○		いずれ入院を再開したいと思っていますが、 諸般の事情により再開の目途がたっていま せん。
87		いとうレディースケ アクリニック	北方町	【現状、特徴】 特記事項無し 【課題】 特記事項無し	病診連携にも力を入れ、引き続き地域の産科・婦人科医院 としての役割を果たしていく。						○	地域における産科・婦人科医療のニーズは 高く、現状の医療を引き続き提供していく。